

テーマ3 公共施設の多様な利用

河川広報施設を活用した地域交流とネットワークの形成

～川のミュージアムネットワーク～

【背景】 地域の連携・交流を促進する河川管理施設の活用要望。

【ねらい】 地域と協働し、環境教育や川と地域の歴史・文化を伝承する場として活用。



スタンプラリー



永山新川で遊ぶ子供達



第1回あさひばし子どもの水辺協議会の開催

これまでの取組

- ・平成16年3月 川のふるさと交流館さらら完成。
- ・平成16年4月 オープニングイベントの開催。
- ・平成16年10月 「さらら」を核とした「ながやま子どもの水辺協議会」を発足。
- ・平成17年1月 石狩川流域における各河川広報施設の連携利用について意見交換会を実施。
- ・平成17年3月 石狩川・川のミュージアムネットワーク発行。
- ・平成18年2月 石狩川治水学習館「川のおもしろ館」を核とした「あさひばし子どもの水辺協議会」を発足。

展開内容

旭川開発建設部と関係自治体及び市民団体等とが協働して取り組みます。

取り組み概要

- ・相互に特色のある展示ソフト等を交換しあったり、館内に共通のPRコーナーを設けるなど、連携効果を生かした展示施設の改善検討。
- ・地域関係者と連携して地域交流を推進するとともに、川と地域の歴史・環境を学ぶ場としても活用されるよう整備と広報を行います。

今後の展開

- ・石狩川流域内の各河川広報施設の利用促進を図るため、周辺他施設や地域関係者とも連携したネットワークの形成に取り組みます。
- ・流域の多面的な魅力にふれてもらえるようスタンプラリーを実施します。

実施時期：平成18年7月上旬（予定）

実施主体：旭川開発建設部、石狩川開発建設部
旭川市

実施場所：石狩川治水学習館「川のおもしろ館」
川のふるさと交流館「さらら」

テーマ3 公共施設の多様な利用

国道の除雪ステーション等を活用した地域振興

【背景】消費者に生産者の顔が見える産直販売の取り組みの広がり

【ねらい】国道沿いの駐車場(公共施設)を地元農家の直売所スペースとして活用することにより、地域の活性化を支援



展開イメージ

地産地消の取組等を背景に、新鮮で安価な農産物等を手にすることができる直売所は、消費者からも注目されています。

国道には除雪ステーションなどの冬期間にだけ利用される公共施設が設けられていますが、旭川開発建設部はこれらの公共施設を地域の方々に有効活用していただき、施設の多面的な活用を図ることを通じて地域振興に貢献します。

平成18年度は、国道の除雪ステーションを活用した直売所の設置の試行を夏から秋まで実施するとともに、取組をさらに広げていくため道路施設を利用する際の運用ルール検討します。

これまでの取り組み

平成16～17年度には、旭川市内の除雪ステーションを活用した直売所の試行を行いました。

このような地域振興の活動の場としての道路空間の活用への期待の高まりを背景に、平成17年3月に「道を活用した地域活動の円滑化のためのガイドライン」が策定されたことから、交通の安全確保の課題等を検討しながら取組の拡大に務めます。

テーマ3 公共施設の多様な利用

堤防の刈草を活用した循環型農業の支援

【背景】安全で安心できる農作物への期待の高まり

【ねらい】地域と協働した持続可能な環境保全型農業の支援。維持管理費の低減。



刈取り草の提供



除草廃材の堆肥化



飼料



敷藁

展開のイメージ

河川堤防を管理するために、毎年定期的に行われている堤防除草に伴う刈草を農家の利用する堆肥や敷藁等として有効活用することにより、環境保全型農業を支援します。

これにより、循環型社会の構築への一助となるとともに、焼却処分量の低減や費用の縮減が図られます。

これまでの取り組み

天塩川や石狩川においても、酪農家などの地域の方々と協働し、堤防の刈草を農家の敷藁として有効活用。

テーマ3 公共施設の多様な利用

－ 1 河川管理施設を活用した地域交流イベントの開催

～ みずウォーク2006北海道シリーズ旭川大会～

【背景】健康増進と水辺環境を見つめ直す目的で行われている全国的なイベントであり、河川管理施設の使用やサブイベントなどで後援を行っている。

【ねらい】旭川大会では「石狩川の日」にあわせた開催となり、川のまち「旭川」において、川への親しみや健康増進を促す。

「みずウォーク2005北海道シリーズ旭川大会」の様子



スタート前の準備体操



10kmコースへスタートした参加者



ちょっと一息、休憩所にて



自然観察ウォークラリーで楽しむ参加者

これまでの取組と成果

- ・平成9年 みずウォーク北海道シリーズ「旭川大会」初開催
- ・毎年同時期継続開催
- ・平成17年 各コースで新コース設定。5kmコースは自然観察ウォークラリーとしてクイズを設定するなどのリニューアル。
毎年300人程が参加しています。また、参加者からは整備された河川敷が家族で楽しく憩う場所となっていて心が癒されるという意見もみられます。

展開内容

みずウォークは健康増進と水辺環境を見つめ直すことを目的に利根川から始まり、現在では全国展開されている歩くイベントです。旭川開発建設部は河川管理施設(堤防や河川敷道路)の使用や自然観察ウォークラリーなどで後援します。

旭川大会においては、「福祉の川づくり」としても整備されているリベライン旭川パークフラワーランドをスタート・ゴールとして、川の町「旭川」の良さを生かした石狩川・忠別川・美瑛川・牛朱別川の川沿いをコースに設定していることから1回のイベントでこれらの主要な川に親しむことができます。

実施時期：平成18年8月6日(予定)

実施主体：読売新聞、日本ウォーキング協会

実施場所：リベラインパーク旭川フラワーランド

テーマ3 公共施設の多様な利用

－2河川管理施設を活用した地域交流イベントの開催

～川のふるさと交流館・さららの活用～

【背景】地域の連携・交流の場となる「永山新川管理センター」の設置に伴う活用要望。

【ねらい】地域の方々と協働した地域交流イベントを開催することにより、地域と一体となった美しい川の保全、水辺づくり、川との親しみなど、河川愛護の普及啓発、情報発信、交流の場となるよう活用する。

平成17年7月の「ラブリバーinながやま」の様子



「カヌーやラフティングボート試乗体験」で川とのふれあい



旭川農業高校による「ミニ演奏会」

平成17年10月の「秋の永山新川まつり」の様子



完売と盛況だった「新鮮な野菜即売、安全な農産加工販売」



「わらじ作り」に挑戦する子どもたち

これまでの取組と成果

- ・平成16年3月に「牛朱別川分水路事業」が竣工して、新しい川「永山新川」が誕生し、その管理と水防の活動拠点として永山新川管理センター（川のふるさと交流館・さらら）が整備されました。
- ・これまでもここを拠点とし、地域の方々を主体とした各種交流イベントを継続し開催しています。

展開内容

ラブリバーinながやま実行委員会・秋の永山新川まつり実行委員会（地元NPO、商工会、JA、小中学校PTA、ながやま子どもの水辺協議会など）と旭川開発建設部が協働して実施します。平成17年4月に「ながやま子どもの水辺協議会」が全国の「子どもの水辺」に登録され、子供達の水辺体験・環境学習等の活動拠点となっています。

取り組み概要

- ・年間を通して河川空間に親しんでもらい、地域の交流の場となるよう、カヌー・ラフティングボート試乗体験、地域の特色ある製品の紹介や販売などのイベントを地域の方々と協働して実施します。
- ・屯田兵村に始まる「ふるさと永山」の歴史や文化を地域の子どもたちに継承するための伝承遊びなどを実施します。

実施時期：平成18年7月・10月（2回予定）

実施主体：NPO法人、商工会、JA、小中学校PTA

ながやま子どもの水辺協議会

実施場所：川のふるさと交流館「さらら」

テーマ3 公共施設の多様な利用

石狩川愛別頭首工を地域のシンボル空間に

【背景】石狩川愛別頭首工が平成19年度に完成

【ねらい】国道39号線に隣接し、愛別町の公園に近接する頭首工の管理棟などを活用して地域の活性化を支援

頭首工完成イメージ(右岸側に愛別町公園の整備を計画)



魚類生息に配慮して、魚道を設置しています

地域の方々にも活用していただく管理棟

これまでの取り組み

石狩川愛別頭首工は、愛別町、比布町、旭川市、鷹栖町の約3,300haの水田の農業用水を取水する施設として、平成19年度完成を目指しています。

農村環境・景観プロジェクト会議(愛別町)などの場で、新しい頭首工を活用した周辺整備のあり方について話し合われています。

国道39号線沿いの公園へのアクセスに配慮した道路整備(歩道)は平成17年度に完成しています。

展開イメージ

石狩川愛別頭首工の周辺整備では、

管理棟の整備に当たって、駐車場、トイレの位置に配慮するとともに、管理棟を開放し、案内板を設置するなど、教育機能と公園利用者の利便性を高めることが検討されています。

平成18年度は、地域の方々の意見を聞きながら愛別町が中心となって公園構想を検討し、旭川開発建設部では、その構想への支援として、残土活用や管理棟周辺の整備について検討を行っています。